



阿部治さん 退職記念インタビュー
 これまで・これからの環境教育

JEEF専務理事の阿部治さんが2021年3月末に立教大学を退職しました。長年にわたり環境教育の普及に取り組まれてきた阿部治さんに、これまでの取組やこれからの環境教育についてお聞きしました。



聞き手:加藤 超大 (JEEF)

— ご退職おめでとうございます。今回は環境教育と出会ったきっかけやこれからの環境教育に求められることなどを聞かせてください。はじめに、自然環境や教育に興味を持ったきっかけを教えてください。

私は新潟県の自然が豊かな所で育ちました。子どもの頃から自然が好きで、特に鳥や動物が大好きでした。このことが私の環境教育の原点です。将来は自然保護や野生動物

に関わる仕事をしたいと考え、野生動物のことを学ぶために東京農工大学に進学しました。大学時代は環境学とシカやクマ、カモシカなどの生態調査や保護・管理について学びました。また、自然保護活動にも関わるようになりました。これらの活動を通じて、私のように自然や環境のことを好きな子どもを育てたいという思いから環境教育に関心をもつようになりました。

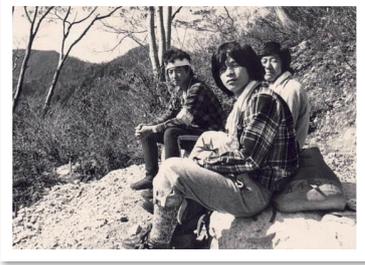
— 大学卒業後はどのような活動に取り組んでいたのでしょうか？

筑波大学大学院で学際的に環境科学を学び、環境教育の教授に指導を仰ぎました。大学院修了後に日本学術会議・環境教育小委員会を幹事としてお手伝いする機会を得て、人文・自然・社会分野の錚々たる先生方と一緒する機会がありました。そこで、日本で環境教育を確立すべきだという先生方の情熱を感じ、私もやっ

てみようと思えました。筑波大学で環境教育以外の分野で専任講師となりましたが、環境教育にどうしても携わりたかったことから埼玉大学に移りました。情報系科目の担当が業務でしたが、1989年に日本の大学では初めての教員単独による環境教育の授業を開講しました。



幼少期
 (小学1年生)



カモシカ調査 (大学生)



調査実習の様子
 (大学院生)



研究室の仲間
 (大学院生)

清里でのゼミ合宿の集合写真
 (埼玉大時代)





日中韓三カ国環境大臣会合 (2018年)



日本人で初めての WEEC (世界環境教育会議) での招待基調講演 (2019年)

「JEEFとの出会いもその頃からでしょうか？」

1987年の「第1回清里フォーラム(現・清里ミーティング)」に参加したのがきっかけです。翌年からは実行委員の一人として日本型環境教育のビジョンづくりに奔走しました。清里ミーティングを通じて、日本に自然系の環境教育を広げようとの情熱を持った沢山の方々と出会ったことが、その後の私を決定づけてくれたと思っています。

「その後は、日本環境教育学会の設立やIGES(地球環境戦略研究機関)環境教育プロジェクトの設立、IUCN(国際自然保護連合)教育コミュニケーション委員会への就任、国連ESDの10年の提案、ESD-Jの設立、ESD活動支援センターの設立など日本における環境教育の普及と国際発信・国際ネットワークの構築に取り組みされてきましたが、印象に残っていることはありますか？」

清里フォーラムをきっかけに環境教育学会を設立したことやIGESのプロジェクトリーダーとしてアジア太平洋地域の環境教育戦略を策定したこと、ESDの10年の提案・推進、日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)の提案・設立などです。これらの会議や調査で50数か国を訪問していますが、そこでの人や自然との出会いも楽しい思い出です。

「これからの環境教育にはどのようなことが求められると思いますか？」

1970年代、90年代と二度の大きな環境ムーブメントがありました。環境ムーブメントが終わりつつありますが、気候危機に代表される今は第三のムーブメントですが、人類に与えられた最後のチャンスだと思います。この状況を打破するためには、社会構造そのものを

私と他者(自然、人、社会)を(空間・時間を超えて)つないでくれるもの、二つの「そうぞうりよく」(想像力と創造力)を育んでくれるのが環境教育だと思います。私にとってその原点は「センス・オブ・ワンダー」であり、「センス・オブ・ヒューマン」です。この二つが私の生きる力の源泉です。

阿部治ヒストリー

- 1955年(0歳) 新潟県塩沢町(現・南魚沼市)で生まれる
- 1979年(24歳) 東京農工大学農学部環境保護学科卒業
- 1982年(27歳) 筑波大学大学院環境科学研究科修了
- 1986年(31歳) 筑波大学講師、日本学術会議・環境教育小委員会幹事
- 1987年(32歳) 第1回清里フォーラム参加
- 1988年(33歳) 埼玉大学助教授、89年に講義「環境教育」開講
- 1990年(35歳) 日本環境教育学会設立、翌年に事務局長就任
- 1992年(37歳) 地球サミットに参加、日本の環境レポートの「環境教育」項目作成、JEEF設立
- 1998年(43歳) 地球環境戦略研究機関(IGES)環境教育プロジェクトリーダー就任(～2004)
- 2000年(45歳) 日中韓環境教育ネットワーク(TEEN)を提案・設立
- 2002年(47歳) 立教大学教授、政府と共に国連ESDの10年をヨハネスブルグサミットに提案
- 2003年(48歳) ESD-J(持続可能な開発のための教育推進会議)設立、代表理事(～現在)
- 2005年(50歳) 国連ESDの10年開始(～2014)、同ポーン中間会議アドバイザー就任
- 2007年(52歳) 立教大学ESD研究センター(現:ESD研究所)設立、センター長(所長)(～2021)
- 2009年(54歳) 日本環境教育学会会長就任(～2015)
- 2012年(57歳) リオ+20に参加、公式サイドイベント等で講演
加藤超大が阿部治ゼミ参加、優秀な成績で卒業
- 2014年(59歳) 国連ESDの10年最終年会議にて公式サイドイベント開催
- 2015年(60歳) TEMM Environment Award(日中韓環境協力賞)受賞
- 2016年(61歳) ESD活動支援センターが設置され、センター長(～2020)
- 2017年(62歳) 環境省 環境保全功労者表彰
- 2018年(63歳) 全国ESD自治体会議(現:ESD/SDGs自治体会議)開催(～現在)
- 2020年(64歳) 日本自然保護協会 日本自然保護大賞特別賞沼田貞賞受賞
- 2021年(65歳) 立教大学定年退職、同大名誉教授に就任

「最後に、阿部さんにとっての環境教育とは何かを教えてください！」